

## 「だいじょうぶ、心配するな、何とかなる」

とんち話で有名な一休さんの話です。亡くなる直前に「本当に困ったときにこの手紙を開きなさい」と言い残して弟子たちに手紙を託したそうです。その後、お寺の存亡にかかわる事態となり弟子たちが困り果て、手紙を開けてみると、このことばが書かれていたのです。

### 「だいじょうぶ、心配するな、何とかなる」

あきれた弟子たちが奮起したためか、師のことばに安心したためかは分かりませんが、その後問題は見事に解決されたそうです。しかし、この話の真贋は不明とのこと。一休さんらしい人柄や人間としての懐の広さ、そして彼の逆説的思考や悟りの一端を垣間見ることのできる逸話として後世に伝わっているのだと思います。

ある研究大会の大会テーマだったこのことばを思い出したとき、何か救われる思いがしました。悩んでいてもしかたがない、自分にできることをやるだけ・・・そんな気持ちにさせてくれました。

今、世界が新型コロナウイルス感染症との戦いで深刻な状況にあります。皆さんのご家庭でも、それぞれに困難を抱えながら、見えない出口を探して努力されていることと思います。学校も、子どもたちの健康体力の維持のためにできることを模索し、学習をどのように進めたらよいか試行錯誤しております。これまで経験したことのない状況や条件の中で、最適解を見つける作業は困難を極めておりますが、子どもたち同士や子どもたちと担任とのつながりを大切にしながらこの難局を乗り越えていきたいと思っております。それが、本校がめざす「よろこびのある梅校」の創造につながることを信じて。

「だいじょうぶ、心配するな、何とかなる」3回くらい声に出して言ってみましょう。かなりありがたいことばです。ほら少し元気になった気がしませんか？

※ 「心配するな 何とかなる」は、本職が昨年参加した2019年NFBT学術会議仙台大会の大会テーマでした。

緊急事態宣言の期間延長を受けて、臨時休業が延長されることになりました。学校再開を心待ちにしている子どもたちの姿を思い浮かべると心が痛みます。福島市では、登校日を増やししながら段階的に再開していく計画です。もう少しのしんぼうです。

## いろんな工夫でこの難局を乗り越えています

○ 医療関係に従事されているお父さんは、毎日子どもたちに会えない寂しさはありますが、万が一を考え家族に感染が広がらないように、仕事場で寝泊まりをしているとのことでした。連日報道にもありますが、保健所をはじめ医療機関にお勤めの皆さんのご労苦に頭が下がります。

○ お店や会社等の休業に賃金カット等、親が大変な様子を目の当たりにして、子どもが手伝いをしたり弟のめんどうをよく見たりするようになったとのうれしい話もありました。親の仕事を知ること、子どもが成長するって本当だったのですねとのこと。現実社会の厳しさに触れる機会となった長期休暇が、思わぬ成果を運んでくれたようです。



←ふくしま西幼稚園で飼われていたミドリガメの「ペコ」です。陽気に誘われて甲羅干しに出てきました。人が近づくとうすぐ潜ってしまうため、2階廊下から撮影。ちょっとした癒やしになっています。(R2. 4. 30)

あわてない  
あわてない

